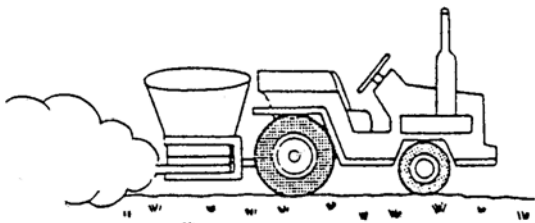


大豆のカドミウム濃度を下げるには、アルカリ資材施用が有効です

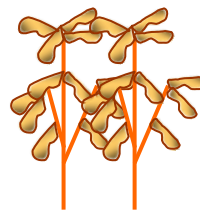
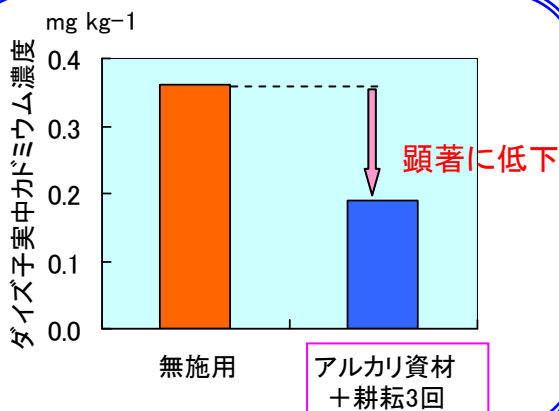
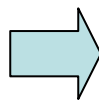
人体に有害なカドミウムについて、農産物中濃度の国際基準が平成18年に決定されました。これを受けて我が国においても国内基準の設定作業が進んでいます。

現時点(平成20年5月)では、大豆についての国内基準は設定されていませんが、新たな基準に適合する安全な農産物生産に向けた技術を確立し、対策を準備しておく必要があります。

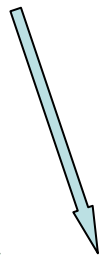
アルカリ資材施用
(消石灰、水マグなど)



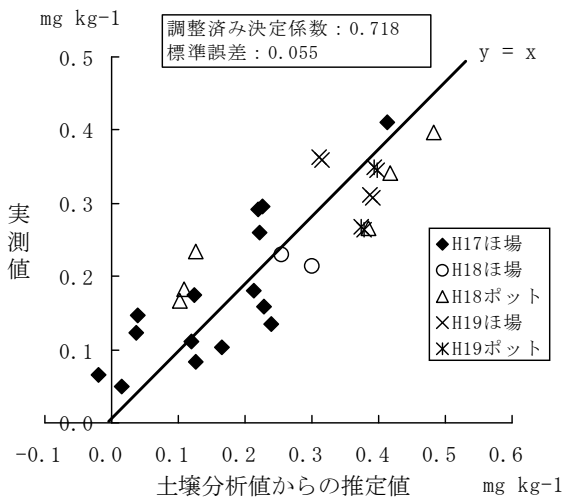
ていねいな耕耘
混和(3回以上)



収穫



播種



ポイント①
 土壌を分析することで、カドミウム濃度が基準を超えないか、大豆を栽培する前に推定可能です

図1 ダイズ子実中カドミウム濃度の推定値と実測値の関係
 注. 土壌中のカドミウム濃度、リン酸吸収係数、全炭素から推定

ポイント②
 アルカリ資材を施用すると、土壌pHが上がり、子実中のカドミウム濃度が低下します

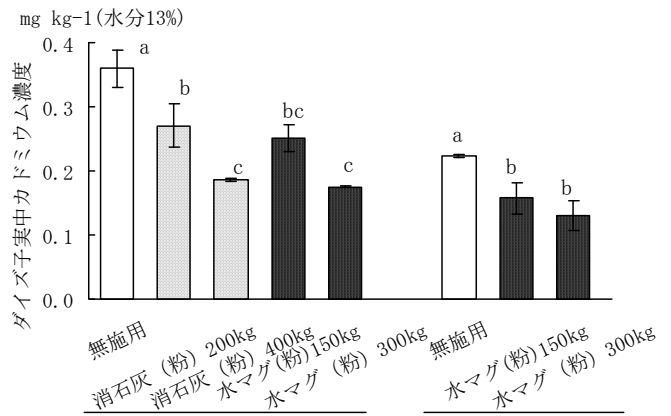


図2 アルカリ資材施用がダイズ子実中カドミウム濃度に及ぼす影響

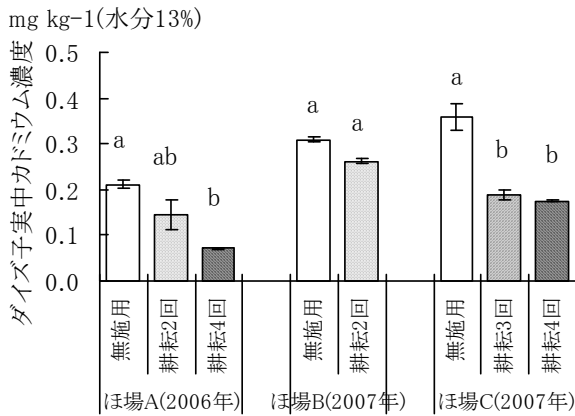


図3 資材施用後の耕耘回数がダイズ子実中カドミウム濃度に及ぼす影響

ポイント③
 アルカリ資材の効果を発揮させるためには、施用後に3回以上耕耘して、作土に均一に混ぜ込むのがポイントです

*本書から転載・複製する場合は、必ず農業試験場の許可を受けてください

(問い合わせ先)
 鳥取県農林総合研究所
 農業試験場 環境研究室
 電話: 0857-53-0721